

令和5年
菊川市議会の活動に関するアンケート調査
検証結果

菊川市議会の活動に関するアンケート結果と検証

菊川市議会では、平成21年2月に議会基本条例を制定し、「市民にわかりやすく開かれた議会運営」「議会機能の強化」「身近で信頼される議会」を目指し活動して参りました。議会基本条例第22条に定める任期3年目に議会基本条例の目的が達成されているか検討するにあたり、市民の皆様から幅広いご意見を聴取するため、市内全域の18歳以上の2,000人にアンケート調査を実施いたしました。回答は、769件、38.5%の回収率でした。

前回（令和元年）のアンケート調査検証以降、新型コロナウイルスの流行により、市民の皆さまとの交流の機会が奪われてしまった時期もありましたが、課題として挙げた「様々な年代に伝わる周知活動」として、議会公式Facebookページの立ち上げや、議会報告会のYouTube動画の撮影、議案審査に係る委員会会議録のホームページでの公開等の活動に努めてまいりました。しかしながら、依然として今回のアンケート調査項目において、大きな数字の改善は見られず、前回調査からほぼ横ばいという結果になりました。

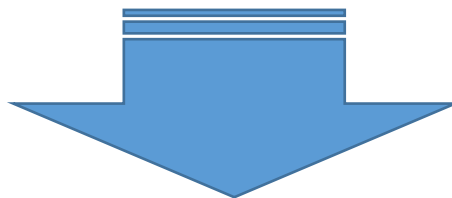
この結果から、もっと広く市民の皆さまに議会に対して知っていただくための広報活動と、反対に市民の皆さまからの意見を聴取し、市議会・市政へと反映させていくための広聴活動をさらに推進する必要があると結論付けました。

今後、このアンケート調査検証結果をもとに議会として具体的な方策についての協議を重ね、「市民に開かれた議会、市民参加を推進する議会」を目指していきます。

令和5年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会議員について】

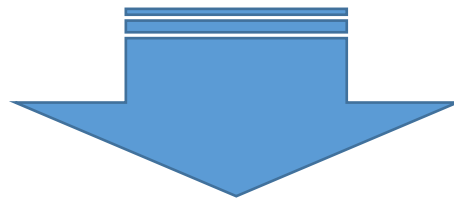
項目	令和元年調査(2019)
結果	○議員の活動内容を知らない 40.0%(H28)→33.8%(R元)
	○議員に意見や要望を伝えたことはない 61.3%→59.6% 議員に接する機会がない 26.5%→21.8% (伝えたことがある方で一番多いのは会ったときに伝えている 65.5%(R元))
	○議会での意思決定結果や議会運営等について、市民への説明責任が果たされていないと思う 23.7%→22.5%
	○知らない・伝えたことはない・説明責任が果たされていない それぞれ 減少している
課題	◆議員の活動内容を知らない方が減少しているが、まだ理解されていない方がいる。
	○市民の意見や要望を広く聴く場等がより一層必要。議員個々の情報発信不足。
	◆報告会開催を知らせる手段(ポスティングだけではダメ)が難しい。
	◆政治(市政)に関心のない市民へ情報を伝えることは非常に難しい。
	○3項目とも前回に比べて僅かだが減少している。しかし、まだまだ努力が必要。
○議員各人の自覚が足りない。	
課題に対する 解決策	☆更に様々な場へ積極的に参加し、各世代の市民とのコミュニケーションに心がける。
	☆会派・グループ・個人で議会報告会・意見交換会を開催し、特定の団体に限定されない
	○多くの市民意見の反映に積極的に取り組む。
	☆年齢層ごとに伝わる方法を検討することが必要 ・各議員インターネットを活用した議会報告を積極的に行う。 ホームページの作成、SNSを活用していく。 ・各議員、広報誌の発行・配布に努める。



解決策の 取り組み状況	◎市民とのコミュニケーション ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、イベントや地区センター祭りなどへの参加を通じて市民とのコミュニケーションを図った。
	◎市民への情報提供と意見反映 ・議会として、市民説明会や議会報告会、請願・陳情等へ積極的に対応した。 ・会派、グループ、個人での報告会・意見交換会はわずかではあるが実施した。
	◎周知活動 ・議会として、インターネットやSNSを活用し、本会議のライブ中継、活動報告の開設、情報の発信力・周知力の向上に努めた。 ・議員個人でのSNSでの情報発信、ホームページの作成、広報誌の発行は一部の者に限定されている。



今年度の検証は次ページへ



項目	令和5年調査(2023)
結果	<p>○議員の活動内容を知らない 36.3%</p> <p>○議員に意見や要望を伝えたことはない 52.0%</p> <p>議員に接する機会がない 29.5%</p> <p>(伝えたことがある方で一番多いのは会ったときに伝えている 64.4%)</p> <p>○議会での意思決定結果や議会運営等について、市民への説明責任が果たされていないと思う 20.4%</p>
課題	<p>◆コミュニケーションと情報伝達の不足</p> <ul style="list-style-type: none">・市民との対話機会が少なく、活動内容等の説明が不足している。 <p>◆議会報告会開催の周知不足</p> <ul style="list-style-type: none">・議会報告会開催のお知らせを周知する手段が難しい。 <p>◆市民の関心について</p> <ul style="list-style-type: none">・若い世代など、あまり関心のない市民に対して興味を持ってもらう方法の検討が必要。・市民の議員活動に対する理解不足を解消する必要がある。
課題に対する解決策	<p>☆議会報告会や市民との意見交換</p> <ul style="list-style-type: none">・各会派やグループ、個人が積極的に議会報告会や意見交換会を開催し、市民の声を反映させる。 <p>☆広報活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・各議員がSNSや広報誌等を用いて、広報活動の実施する。議会としては、Facebook等のSNSの活用やホームページの充実を図るために、議会ICT推進委員会で新たな媒体を含めて市民に対し分かりやすい情報提供を研究する。

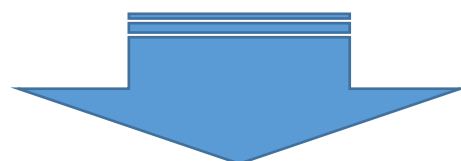
令和5年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会について】

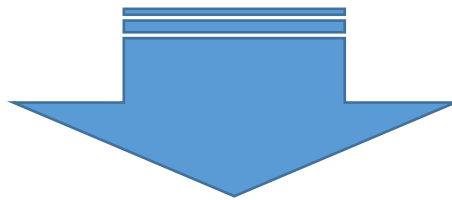
項目	令和元年調査(2019)
結果	全般的にマイナスの数字は減少しているが全体割合からみるとまだまだ数値が高い
	○市民の意見が議会に全く反映されていない・わからない 49.6%(H28)→48.7%(R元)
	○議会の活動について全く評価しない・わからない 46.3%→40.9%
	○議会に対しどちらかといえば期待や信頼をしていない・期待や信頼もしていない 33.6%→28.6%
	○議会は監視機能を全く果たしていない・わからない 62.1%→58.7%
	○議会報告会(議会ふれあいミーティング「語ら座あ」)に出席したことがない・行っていることを知らない 88.7%→85.5%
	○議会の情報があまり周知されていない・全く周知されていない 48.2%→45.2%
	○議会だより毎回読んでいる・時々読んでいる 75.3%→72.5%
○映像配信を見たことがない・知らない 97.2%→94.2%	
課題	◆市政に対する市民の関心が薄い。議会の見える化、わかる化の推進。 (決定事項のみが伝わり、そこまでの過程が伝わっていない。審議・決定プロセスの透明化)
	◆情報発信力の強化。
	◆市民意見を取り入れた政策等の立案形成。
	◆行政監視機能の強化。
課題に対する 解決策	◎議会オリジナルのホームページを立ち上げ、よりわかりやすく伝える工夫をする。
	◎市民が議会へ参加できる市民モニター制度の導入。(全般・議会だより)
	◎議会報告が行政報告になりがち。課題が何かを伝え問題提起を行い意見を求める。
	◎議会報告会では、課題を抽出して議論できる手法を取る。
	◎議会報告会参加者に自治会役員や班長以外の幅広い市民の参加を検討する。
	◎ターゲットを絞った(学生、子育て世代、老人クラブ等)意見交換会の自主開催。
	◎予算決算審査のサイクルの確立。
	◎議会全体の活動を「目的・目標→実施状況→結果報告→反省」のサイクルで行う。
◎地域、年齢層等細かい分析の出来るアンケートを実施する。	
◎議会改革サイクルの確立。毎年・2年間・4年間 検証と改革。	



解決策の 取り組み状況	◎情報発信 ・ホームページ、Facebook等での情報発信を行っている。
	◎市民参加とモニター制度 ・議会モニター、議会サポート制度の導入など、市民が議会に対し意見や審議に関与できる機会提供の検討をしている。
	◎提言と審査 ・決算審査後に次年度予算に向けた提言を行っている。 ・予算決算審査のサイクルを検討し、PDCAサイクルによる議会の政策活動及び監視機能を高めるための取り組みを、議会改革推進委員会で検討中である。
	◎議会報告会 ・議会報告会で行政と議会の役割を説明し、委員会、政策討論会などの活動、審議内容の報告をしている。開催方法についても毎年議会報告企画委員会にて見直している。



今年度の検証は次ページへ

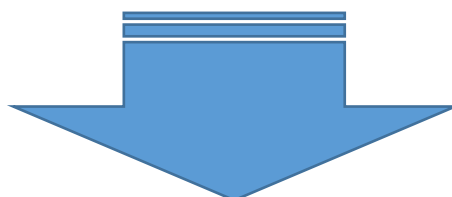


項目	令和5年調査(2023)
結果	○市民の意見が議会に全く反映されていない・わからない 48.9%
	○議会の活動について全く評価しない・わからない 40.6%
	○議会に対しどちらかといえば期待や信頼をしていない・期待や信頼もしていない 32.4%
	○議会は監視機能を全く果たしていない・わからない 60.1%
	○議会報告会(議会ふれあいミーティング「語ら座あ」)に出席したことがない・行っていることを知らない 85.7%
	○議会の情報があまり周知されていない・全く周知されていない 46.0%
	○議会だより毎回読んでいます・時々読んでいます 71.4%
	○映像配信を見たことがない・知らない 90.7%
○Facebook発信をしていることを知らない 86.1%	
課題	<p>◆議会への市民の関心不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会への関心が低く、市政の関心事や問題点について理解してもらうために、積極的な情報発信が必要である。 ・議会の見える化やわかる化を進め、提言だけでなく結果や検証の報告を通じて議会の必要性を理解してもらうことが必要。
	<p>◆市民意見聴取の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見の取り入れが不足しており、市民の中でどのような事が問題となっているか把握することが難しい状況である。
	<p>◆情報伝達について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信した情報が確実に市民に届いていない。 ・成果が出ていないと考える市民が多く、市民に親しみやすい情報提供方法を検討する必要がある。
課題に対する解決策	<p>☆議会報告会や意見交換会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別の報告会、市民や各団体との意見交換会の開催。 ・議会・議員の活動内容・仕組みを分かりやすく伝える。 ・議会報告会等の参加者を増加させるためのSNSやホームページ等の媒体活用による情報発信を含め、議会報告会開催に併せ、議会報告企画委員会で検討する。
	<p>☆市民参加の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が議会に対して意見を述べる機会を増やすため、議会モニター・議会サポート制度の導入検討を、議会改革推進委員会で実施。
	<p>☆情報発信の多様化とアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会オリジナルのホームページを立ち上げ、市民にわかりやすい情報発信、広報誌やホームページの情報に気軽にアクセスできるように、新たな発信方法の研究、SNS等を活用した情報発信の多様化、短いダイジェスト動画など、アクセス向上を目指すために、議会ICT推進委員会で検討・実施する。 ・広報誌やHPの情報を気軽にアクセスできるよう、新たな発信方法の検討を進める。 ・SNSなどを活用した情報発信の多様化を図り、短いダイジェスト動画などでアクセス向上を目指す。
<p>☆市民意見の取り入れと反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に寄り添った内容へ変更するために、議会報告会の見直しを含め、議会報告企画委員会で検討する。 ・予算決算審査サイクルの確立や決算提言の効果検証を行い、市民の意見が具体的な政策に反映するように行政に対する監視やチェック機能の強化を図るため、議会改革推進委員会で検討する。 	

令和5年度 菊川市議会の活動に関するアンケート調査結果の検証

【菊川市議会議員の人数・報酬などについて】

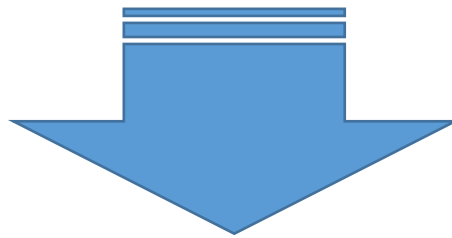
項目	令和元年調査(2019)
結果	○人数は、適当である43.4%、多い17.0%、少ない2.1%、わからない35.9%
	○報酬は、適当である34.8%、多い23.5%、少ない5.7%、わからない33.4%
	○市民の意見を市政に反映するため特に力を入れてほしいことでは、市民に魅力ある議会活動20.9%、議員の資質向上20.2%、議員の活動情報の積極的な提供17.5%
	○議員として働いてみたいかとの質問 全く思わない 85.2%(H28)→81.5%(R元)
課題	◆若者や女性議員を増やす仕組みができていない。
	◆定数、報酬ともに3割強の「わからない」との回答があるので、より説明が必要。
	◆審査等への議論を深めるためには議員定数が多い方が良い。(市民の理解が必要)
	◆議員になるリスクと魅力両方の情報の提供不足。
	◆報酬が十分であればやってみみたい方がいることから報酬の検討が必要。
課題に対する解決策	◆定数については人口規模・委員会審査の充実・他市との比較・市の財政状況からや市民意見の反映をする。
	◆政務活動費は増額する必要がある。
	◎議員定数と報酬について議員間で話し合う機会を設ける。
	◎議員の職務・活動内容実態調査と報酬算定基準の明確化。
	◎議員定数と報酬について事あるごとに市民へ情報提供を行い、議論出来る環境を整える。
	◎報酬が十分であればやってみみたい方がいることから、報酬の増額の検討。年齢による段階的報酬の取り入れや子育て手当等の検討を行う。
	◎地方議員の処遇改善を国に働きかける。立候補のための企業の支援制度の理解を得る。
	◎議会モニター制度を導入し、興味、活動理解を深め議員のなり手を確保する。
	◎若者、女性が市政に対し、興味を持てるよう意見交換の機会増、facebookやLINEなどSNSでの情報提供を進める。
◎政務活動費増額へ向けてその必要性を調査し適当な金額を算出する。	
◎現職(引退)議員による後継候補者の発掘、育成。	



解決策の取り組み状況	◎議員定数と報酬に関する検討 議員間での議論の機会がなく、議員定数や報酬に関する明確な基準の確認が必要。 ◎議員構成と情報発信の現状 若い世代の議員が増加しており、Facebookを通じた情報発信が行われている。
------------	---



今年度の検証は次ページへ



項目	令和5年調査(2023)
結果	○人数は、適当である43.0%、多い18.2%、少ない3.0%、わからない31.7%
	○報酬は、適当である36.7%、多い17.0%、少ない9.0%、わからない31.7%
	○市民の意見を市政に反映するため特に力を入れてほしいことでは、市民に魅力ある議会活動18.7%、議員の活動情報の積極的な提供18.4%、議員の資質向上18.1%
	○議員として働いてみたいかとの質問 全く思わない 76.9%
課題	◆議員間での話し合い ・議員定数と報酬に関するアンケート結果が妥当でも、話し合いの機会が不足している。議員同士の話し合う機会が必要。
	◆市民に向けた議員業務の情報提供 ・議員になるリスクと魅力に関する情報が不足している。市民に対して議員業務のリアルな側面を提供し、政治参加への理解を深める必要がある。
	◆政務活動費の在り方 ・政務活動費の支給方法についての検討が必要。
	◆議員年金制度について ・今後の議員のなり手を増やすためにも保障等の処遇改善を図るべき。
課題に対する 解決策	☆議員定数と報酬の見直し ・議員定数については概ね妥当であるが、なり手不足解消のために報酬をあげるには、しっかりとした議員の役割と活動、議会の役割と活動を市民に理解していただく必要がある。 ・報酬等の算定のための根拠を確認する。
	☆情報提供と議論の場の提供 ・議員間で本格的な話し合いを行い、市民に向けて透明で公開された場で議論を行う。 ・議員活動に関する情報提供を強化する。
	☆政務活動費の増額と活用方法の検討 ・政務活動費の増額に向けた必要性の調査と、適切な政務活動費の額の算出、活用方法の検討を行う。 ・議員定数と報酬の見直しと、政務活動費の増額と活用方法は、4年ごとに議会改革推進委員会で検討する。
	☆議員のなり手不足の解消 ・議員年金制度と兼業禁止等の処遇改善についての要望の実施を議会運営委員会で検討する。